



郵便  
**報知新聞**  
 第四百二十六号

日光山の天狗の使と号る似而非的漢  
 己が名に似る高被小断髪頭巧もの  
 浅き深川の其名も高き鼻柱西村の  
 宅不至り何の蹠蹠ハ白銀の大國の像  
 と三四つと出—其許信心の深きと  
 予が師公の感トあひ福寿山満無量と  
 投んと態々特使と立られすと物有  
 貌論せども圈套ハ契のぬ大膽老物  
 俺は是商人中の大天狗你的似き木の  
 葉天狗ハ部曲の裏面もも見えざる奴  
 あり脚底の明白際ハ退去むら眼  
 物見せんと眼鏡の上端より赫と眼  
 一眼の光りふ懼怕て影と匿せ—  
 とを此ハ明治七年秋のりんと

龜洲漁人誌



全錦堂

大獲  
 芳  
 眼

